

巻頭言

2017年は本学歯学部創立40周年の年！

歯学部長 宮 脇 正 一

平素より鹿児島大学歯学部の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、鹿児島大学歯学部紀要第37巻を皆様にお届けできることを、歯学部長としてとても嬉しく思います。

さて、昨年（2016年）は、例年になく大変な年だったように思います。まず、3月に合格発表のあった歯科医師国家試験ですが、ここ数年間はトップクラスに入っておりました本学歯学部の合格率が、残念ながら11校ある国立大学の中で最下位となりました。そこで、直ちに当時の歯学部長と連携して国試対策チームを立ち上げ、他大学の情報収集と原因究明に努めました。最大限の対応ができたと自負しておりますが、今後も厳しい状況が続くと予想されますので、引き続き懇切丁寧なご指導を皆様をお願いしたいと思います。

次に、昨年の4月に熊本で大地震が起きました。これに関しましても、直ちに副病院長をはじめ多くの教授の先生方のご対応ならびに多くの歯学部構成員や歯科衛生士らによる献身的なご協力のお陰で、日本医師会災害医療チームや全国知事会の要請を受け歯学部所属の歯科医師らを全国で初めて派遣することができました。また、本学歯学部主催の鹿児島防災シンポジウムを開催し、県歯科医師会、海上保安庁ならびに鹿児島県警との緊密な連携も可能となり、2016年は「鹿児島防災歯科元年」となりました。このような本学歯学部の活動は、南日本新聞に掲載され、地域医療の中核としての新たな役割を果たすことができたと思います。

また昨年は、分野別認証評価の準備や、始まったばかりの第3期中期目標・計画に向けた取り組み、歯学部創立40周年記念事業の準備を開始いたしました。また現在、大学への運営費交付金の削減に伴う厳しい経済状況を改善するため、昨年の漢字である「金」、すなわち外部資金の獲得が求められております。そのため、外部資金の獲得実績がある先生方に執行部に入って頂き、歯学部基金の創設や教育資源の有効利用による外部資金の獲得を進めつつ、今後の大型研究費の獲得を見据えた共同研究も推進する予定です。

さらに、昨年は、人件費ポイント削減の本格的な検討が開始されたことに加え、数年に一度の文部科学省との意見交換会、学長ヒアリングならびに新歯科外来の具体的な検討もありました。かつては、本学歯学部の存続が危ぶまれた時期もあったとのことですが、将来を見据えた歯学部の最近の活動や今後の戦略等が十分理解された結果、現在では、文部科学省から高い評価を受けており、退学した学生数を補うための仕組みに関する助言を頂けるような状況となっております。

さて、2017年は丁酉（ひのと）の年で、この丁（ひのと）は十干（じっかん）では4番目であり、酉（とり）は十二支（じゅうにし）では10番目ですので、今年は4と10すなわち鹿児島大学歯学部創立40周年の記念すべき年でもあります。また、この丁酉は、歴史的にみますと、革命や改革の年だとのこと。したがって、今年は、歯学部にとりましても改革の年となるよう、40周年を盛り上げていきたいと思っております。これらを可能とするためには、引き続き皆様のご理解とご協力が不可欠ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。